

ノンネイティブ・クリエイティブ：インタビュー

アオヤマ・ミドリ

(ビデオの通り)

ミドリ：アオヤマ・ミドリです。音楽が好きだけど、人と出会うのが好きです。もちろんDJをやっているし、パーティーのプロモーションもやっているし、海外のDJのブッキング、自分のラジオ番組をやっている。なんか、すべてが一体の流れになる。

東京生まれ、東京で活躍している。以前ロンドンに住んでおり、2010年にDJの活動を始めました。大学へ行って、そこから1年間休んだ。UKのアンダーグラウンドのダンスミュージックカルチャーにショックを受けた。そのようなことを日本でできたらいいなと思った。

東京とロンドン、色んな違いがあるんだ。東京は全然寝れなくて、深夜遊びに行ったら、たくさんの居酒屋、バー、カラオケ、色んなことあるんだ。しかし、ロンドンの場合、パブ、バー、クラブしかない。基本的に、遊びに行きたいなら、皆クラブに行って、お酒を飲んで、ダンスしますね。

日本人は本格のダンスミュージックカルチャーと業界はあんまりしなrai。例えば、今の日本では、ジャズは素晴らしいです。日本では、ジャズミュージックは長い、長い歴史があるから。ロックミュージックもそう。教育ある。だけどダンスミュージックの歴史は20年ぐらいかな？日本では。しかし、UK,アメリカ、ヨーロッパ等では、もっと長いですね。40、50年ぐらいかもしれない。

今、ネットはどこでもあるね。日本人は日本以外の生活を分かる。チェックできる。そして、英語できる人、というか、ヨーロッパの人も日本にきて、遊ぶよね。前よりクロスオーバーしているよね。

「では、これからゲストミックスをやります。」

面白いと思うんだけど、この業界で働くため、一番大事なことはまず英語ですね。基本的にみんな英語をはなせる。英語できないDJと会ったことがない。どこの国からでも。僕はたくさんのDJと会えた。まず、皆は英語を話せる。英語ができれば、全部共有できます。

日本人にとって、まだまだ難しいと思う。よくなっているけど。今皆はネットで全部無料でアクセスできるので、皆は自由にコミュニケーションできる。凄いよね。

人々が日本外のブランディングとプロモーション。

皆文化の違い分からない。

アリーシャ：そういうことは、EPをリリースする時、パーティーを企画する時に、考える？

ミドリ：そう。最初のEPはクラカザットというイギリス人と働いた。彼は今スウェーデンに住んでいる。日本とあんまり関係ない。で、その次のEPはアメリカ人とオランダ人のコラボレーション曲だった。3回目のEPはフランスの男性と。基本的に、ラベルは日本で設立されたけど、EPをリリースするアーティストは日本人ではないです。

アリーシャ：どうやってコネクションを作る？

ミドリ：ラベルの前、パーティーをやっていた。4、5年ぐらいでずーとパーティーを企画した。そこから、海外のDJを来日企画を始めた。その時、やっぱり話して、自分のアイデアと考え方について話すね。

私は日本のラベルをやっています。だからラベルで日本では何が行われていることを分かるわけですね。なので、海外のDJ方々は自分を日本でプロモーションをしたい場合、僕のラベルにリリースしたほうがいいですね。日本には強いからです。

二つのリリースをしてから、世界中のプロデューサーがデモを送ってくれた。音楽はよかったけど、あんまり好きじゃなかった。なぜかという、その方のバックグラウンドを触れなかったからのだ。

アリーシャ：そのうち、一部は海外のDJとの来日企画ですね。それを学べるようになるまで、結構時間かかった？というか、最初に難しかった？

ミドリ：そう。実はいい質問ですね。実際、そんなに難しくはないけど、逆にそんなに簡単ではないですね。異文化、違うバックグラウンド等についても考えないといけないから。

実は、今までのブッキングできたDJはほぼ皆、来日まで会ったことがない。すべての話はネットでやる。しかし、日本の場合、やっぱり皆は顔合わせしたいです。会う前に何も決めない、基本的に。

現実されるためのコミュニケーションは難しいです。人々がよく考えていることは「どうやって相手を信頼する」？僕は日本からです。相手はビジネス場面から考えたら、僕のことを知らない。そういうこと。信頼をできて、チケットを買って、日本まで来て、出演する。すごいチャレンジですね。ある意味で、冒険です。

そういう状況だから、僕は毎年ヨーロッパへ行く。シーンでは何が行われているかを見に行く。友達と会って、挨拶する。今僕のやっていること、考えていることを共有する。そして、現地の人と話す。そこから、アーティストを信頼したら、「一緒にやりましょ

う」。やっぱり時間かかりますね。時間と忍耐が必要です。多くの人は同じようなことをしようとしているんだけど、すごい時間かかりますよ。もう、5、6年ぐらいかかった。

アリーシャ：海外に出演する時、すごく意識的にする？例えば「日本にいないから、違うことをやるべき」とか？

ミドリ：いや。違う。

アリーシャ：違うか。ずっと同じ？

ミドリ：同じ。いいことだよ。だって、同じような音楽を共有しているからね。日本以外でも。世界中。すごいよね。例えば、僕の友人が曲をリリースしたら、皆はその曲をかけるね。

アリーシャ：日本に対してのステレオタイプを持つ人と会ったことある？

ミドリ：そうそうそう！たくさん！例えば、「畳の床の家に住んでいる？」と聞かれたら「うん、時々。親の家に行ったら、畳があるんだよ。」と言って、「ウオー！」って。

アリーシャ：日本の基礎の知識を持っているんだけど、深く理解はない。というか、どこからスタートすればよいか分からないか。

ミドリ：うん。でも現在はね、ヨーロッパとか行ったら、プロモーターは僕を宣伝するよね。皆はネットで調べる。基礎の教育がある。ネットカルチャーとして。だから皆は私のバックグラウンド、インタビュー等をチェックするよね。僕の音楽、僕のラベル。クラブに行く前に、知識を得る。

アリーシャ：ミドリのパーティーと他の東京で開催されるパーティーの違いは何でしょうか。何か変わったところというか、特徴はありますか。

ミドリ：ある意味で、あります。「ユリーカ」というハウスミュージックパーティーですが、東京ではハウスミュージックが多い。私たちの場合、もっとソウルフルでやっていると言える。ソウルフル、ジャズ風、ローファイ。今私たちはその三つのキーワードだと思う。そしてできるだけ新アーティストも紹介します。

アリーシャ：そしてこれからも他のプロジェクトありますよね。ネットラジオも作っています。

ミドリ：そう。「つばき FM」というラジオプラットフォームです。日本で撮影、録音するんだけど、世界中まで放送する。各カルチャ、アンダーグラウンドミュージックカルチャを日本で通じて、世界まで放送する。

アリーシャ：それは毎週？毎日？内容は。

ミドリ：毎週日曜日、午後6時から9時までやっています。

アリーシャ：日本時間？

ミドリ：うん、日本時間。僕は番組のホストをしています。そしてゲストのDJをブックキングする。東京からの人、京都、大阪、福岡、とかから的人也来る。日本からの人。そして僕と関係ある海外のゲストが来日中なら、ラジオにも出演する。もちろん、考え方とアイデアを共有したいんだけど、音楽はいつも第一ですね。だから音楽をかける。

アリーシャ：なるほど。英語で？日本語で？

ミドリ：英語。うん。だけど、少し日本語でも話すかもしれない。

ミドリ：ラジオはすごく、すごくローカルなことですね。人々の基礎の教育です。だけど、これから私たちはもっと多きなことを考えている。フェスティバルみたいなものかもしれない。ラベルも大きくなる、コミュニティーも。僕のやってみたいことはもっと大きなコミュニティーを作ること。

アリーシャ：それはここでやっていることとの一部ですかね。

ミドリ：うん、うん。

アリーシャ：今日は渋谷の「おたいレコードスクール」にいます。ここ週一回で教えますね。

ミドリ：うん。最初は機器の使い方を学ぶ。ミキサーの使い方、ノブの使い方、そういうことからスタートします。それから、AからB、BからAのミックス。学生がそれをできるようになったら、曲の選び方、グルーブの作りかたを教えます。ストーリーの作り方。この学校は1年半ぐらいやっていて、数人はもうクラブでDJを始めました。

アリーシャ：本当ですか？

ミドリ：うん。

アリーシャ：見に行った？

ミドリ：うん！

アリーシャ：よかった？

ミドリ：うん。

アリーシャ：自分の学生？

ミドリ：うん、うん、いい感じ。クラブで生徒と会ったら、「ああ、先生！」と言われる。

アリーシャ：本当ですか？

ミドリ：やっぱり、そういうことを想像できなかったね。講師になることは。生徒が質問をしたら「先生？マスター」と。すごい。直接に人を教育するのはすごいです。

アリーシャ：どこで情報をチェックできますか？

ミドリ：どこでも。「ミドリ・アオヤマ」というフェースブックページ、サウンドクラウド、インスタグラム等があります。ほぼ毎日投稿するので、チェックかググるで調べて。

アリーシャ：はい。是非、ミドリ・アオヤマのフェースブック、インスタグラムをチェックして、つばき FM をチェックして、東京に来たら、是非かれのパーティーに行ってみて

ください！今回のノンネイティブ・クリエーティブを見てくださってありがとうございました！また次回！終わり！

ミドリ：顔や肌の色、言語、宗教に関係なく、みんなが同じ音楽を好きだと思い、共有している。それがワクワクするんです。